

コンコンとドアを

ノックして欲しいと願ひ

仲間と体験談をつづりました



嵐の中で見つけた宝物

はま

我が家は、薬物依存症の息子とその影響を受けて育った息子がいます。息子は、三人。長男はいじめの問題、次男は薬物依存症、三男は、その中で感情を出せないようになっていきました。薬物依存症の問題が我が家にやってきた時のことを鮮明に覚えています。次男は、とても明るい野球少年で小学校の時にキャプテンをし、チームのムードメーカーでした。決して野球が上手いわけではなかった彼は、中学の時に野球をやめてから非行が始まり、その後、薬物依存症の道をいくこととなります。

ある日ソファアーベットの引き出しからガス缶に始まり大麻、シンナー、処方薬、危険ドラッグ、覚醒剤を使用していました。その中で私は、なんとかしようと思死でしたが、問題は台風のように次から次へとやってきます。次男の当時のこと……非行問題、薬物で人間関係のトラブル、車に乗っては廃車にするほど事故を起こすなどがあり、その中の息子の切ない顔、何とかしたい気持ち、迷惑かけたくないと思死になつていくけれど空回りしているように私がなんとかしようと思死、家において、出かけていても、いつか息子が死んでしまうのではないかと、言う感覚になり、心が壊れていくつてこういうことかと味わいました。気力も無くなつた時、家庭の中も壊れていきました。パートナーとの関係性も、他の家族とも上手く気持ちが伝わらなくなつて、私は「死にたい」と思うようになりました。

何年もかかり、やっと自助グループに繋がりました。繋がったけれど、孤立していた私は仲間
間に正直に心を開くにも時間がかかりました。その中で、※回復の十二ステッププログラム
があることを知り、※スポンサーに出会いました。これが私には、自分を変えるチャンス
になりました。自分を知ることです。パートナーとの関係性も劇的に変わりました。私が私
の気持ちを伝えることができるようになったのです。自助グループに通い続けているうちに、
パートナーもプログラムの機会に巡り合えたことで、五年後に離婚しようと言っていた私た
ちの関係性に少しずつ変化を感じ始め、無我夢中で回復施設の家族会に足繫く通い、この回
復施設にお任せしたいと決まった頃にコロナ禍がやってきました。

私は、強迫性障害を発症し、大きなターニングポイントがやってきました。次男からのラ
イン『今までありますがどうございました。生活できなくなつたので、死にます。お金を貸して
くれないなら！』私は、自分でもびつくりするくらいどうしたら良いのかわかりませんでし
た。すると、パートナーが回復施設の方と彼の※スポンサーに連絡。どのように対応するか
を三日間に渡り相談しました。そして、パートナーが伝えたのは、「お金は貸さない、お前
の問題をお父さんとお母さんはどうすることも出来ないから同じ境遇の仲間の所に行って！」
「親が子どもから死にたいと言われた時の気持ちはどんなものかわかってほしい」と心の奥
からの声を言いました。

三ヶ月ほどして次男は自ら仲間のところへ行きました。当人の自助グループに連れて行っ
てもらい※フェローシップを重ねていった息子は「一年は行くから」と言っていました。

その後、彼はたくさんの方と出会い、たくさんのことを考え、これからどうしたいのかを仲間に相談しながら今を生きていきます！思い通りにならない人生を歩いているのかもですが、私はこの体験を経て私の生き方、自分の伝えたいことが見えてきました。

手紙を書きます。

息子へ

「あなたが薬物依存症になって大変なことも多かったけれど、私は大切な仲間に出会う機会を与えてもらい正直に生きる事を学びました。そして、あなたに伝えたいことは、どんなあなたも愛しているよ」



用語の説明

ハイヤーパワー

自分自身を超えた、自分よりも偉大だと認められる「力」。
薬物依存に無力であるからこそ、自分を超えた大きな力に自分をゆだねている。
その力についてどう解釈するかはまったく各人に自由に任されている。

スポンサー／スポンサーシップ

回復の十二ステッププログラムを実践するにあたり、メンバーはより経験のあるメンバーに相談し、助言や提案を示してもらう。その助言者をスポンサー、その関わりをスポンサーシップと呼んでいる。

回復の十二ステッププログラム

回復のプログラムとして提案されている十二のステップは、スピリチュアル（霊的）な特徴を持つ生きかたの原理。

フェローシップ

本来は仲間の集合体を指すが、ミーティングを離れた仲間同士の交流の意味で使われることが多い。